

I 調査の概要

1. 調査の目的

この調査は、市民が市政についてどのように考え、また何を望んでいるのかを統計的に把握するとともに、施策の評価や市政への関心・意識の程度を調査し、市政運営上の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

調査項目は以下のとおりである。

調査事項	調査項目
回答者属性	性別、年齢、職業、家族構成、居住年数、居住地域、居住地区
宇都宮市に対する感じ方	宇都宮市の好き・嫌い、好きな理由、嫌いな理由
広報媒体の活用状況	「広報うつのみや」の入手方法、「広報うつのみや」で読んでいる記事、アプリを利用した関連情報閲覧状況、市政情報の各広報媒体の視聴状況、ホームページを見るための主な手段、ホームページで知りたい情報はどこから探すか、ホームページで知りたい情報は探しやすいか、広報紙やホームページで充実してほしい情報や機能
ごみステーションへのごみの排出状況	「消費期限」・「賞味期限」の認知度、賞味期限切れ等の未開封の食品を捨てる頻度
中心市街地の活性化	中心市街地へ出かける頻度、中心市街地へ出かける目的、中心市街地をより魅力づけるために充実が必要なもの
生物多様性	「生物多様性」の認知度、外来種が及ぼす影響に関する認知度、生物多様性保全に係る活動への参加意向
いちご一会とちぎ国体	栃木県で国体が開催されることの認知度、とちぎ国体へボランティアとしての参加意向、国体を盛り上げるために重要だと思うこと
大谷地域の振興	大谷地域への来訪経験の有無、大谷地域への来訪頻度、大谷地域への来訪目的、大谷地域への来訪手段、大谷地域内での移動手段、大谷地域の振興に向けて必要だと思う取組
うつのみや産の農畜産物	「うつのみや産」の農畜産物の購入意向、宇都宮の農業を大切にしたいと思うか
日常生活における防災に関する意識や行動	災害への備えに関する認識、災害発生時の情報入手方法
自治会	自治会への加入状況、自治会へ加入したきっかけ、自治会へ加入していない理由、住みよい暮らしのため自治会は今後どのようなになればよいと思うか
住宅用火災警報器	「住宅用火災警報器または自動火災報知設備」の設置状況、「住宅用火災警報器等」の点検実施状況、「住宅用火災警報器等」を設置していない理由
男女共同参画	家事・育児・介護それぞれに費やした時間、社会的な活動の実施状況、配偶者からの暴力を受けた経験、LGBT（エルジービーティー）の認知度

調査事項	調査項目
宇都宮市森林公園とアクティビティ ニーズ	宇都宮市森林公園への来訪頻度，宇都宮市森林公園への来訪目的，森林公園にある施設や設備の改善すべき点，興味のあるアクティビティ
「大谷石文化」の日本遺産認定	「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度，「大谷石文化」を誇りに感じるか
敬老事業	「敬老」にふさわしい年齢，敬老の年齢になったときに市からお祝いしてもらいたいのか，敬老のお祝いの内容
まちづくり活動への参加意識	「まちづくり活動」への参加意向，「参加している」または「興味がある」まちづくり活動，まちづくり活動への参加のきっかけ，まちづくり活動に「参加したいと思わない」または「参加できない」理由
特別支援教育	「発達障がい」の認知度，「特別支援教育」の認知度
マイナンバーカードを活用した電子申請の利用	マイナンバーカードを活用した電子申請（行政手続き）の利用意向，マイナンバーを活用した電子申請（行政手続き）で利用したいと思うサービス，マイナンバーカードを活用した電子申請（行政手続き）を利用したくない理由

3. 調査の設計

- 調査地域 宇都宮市全域
- 調査対象者 満 18 歳以上 80 歳未満の日本国籍を有する市民 4,800 人
- 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査方法 郵送法（回収にあたってはインターネットを併用）
- 調査期間 平成 30 年 8 月 10 日～8 月 24 日

4. 回収結果

調査対象数	有効回答数	有効回答率
4,800	2,405	50.1%

<性別・年齢別の回収状況>

年代	性別	調査対象数	郵送		インターネット		合計	
			回収数	回収率	回収数	回収率	回収数	回収率
10歳代	男性	48	10	20.8%	3	6.3%	13	27.1%
	女性	54	16	29.6%	7	13.0%	23	42.6%
	計	102	26	25.5%	10	9.8%	36	35.3%
20歳代	男性	322	55	17.1%	23	7.1%	78	24.2%
	女性	286	76	26.6%	26	9.1%	102	35.7%
	計	608	131	21.5%	49	8.1%	180	29.6%
30歳代	男性	450	89	19.8%	54	12.0%	143	31.8%
	女性	386	146	37.8%	32	8.3%	178	46.1%
	計	836	235	28.1%	86	10.3%	321	38.4%
40歳代	男性	533	131	24.6%	57	10.7%	188	35.3%
	女性	490	242	49.4%	63	12.9%	305	62.2%
	計	1,023	373	36.5%	120	11.7%	493	48.2%
50歳代	男性	400	146	36.5%	66	16.5%	212	53.0%
	女性	361	199	55.1%	28	7.8%	227	62.9%
	計	761	345	45.3%	94	12.4%	439	57.7%
60歳代	男性	396	196	49.5%	37	9.3%	233	58.8%
	女性	400	254	63.5%	4	1.0%	258	64.5%
	不明	—	2	—	0	—	2	—
	計	796	452	56.8%	41	5.2%	493	61.9%
70歳以上	男性	301	180	59.8%	3	1.0%	183	60.8%
	女性	373	245	65.7%	3	0.8%	248	66.5%
	計	674	425	63.1%	6	0.9%	431	63.9%
年代不明	男性	—	2	—	0	—	2	—
	女性	—	1	—	0	—	1	—
	不明	—	9	—	0	—	9	—
	計	—	12	—	0	—	12	—
全体	男性	2,450	809	33.0%	243	9.9%	1,052	42.9%
	女性	2,350	1,179	50.2%	163	6.9%	1,342	57.1%
	不明	—	11	—	0	—	11	—
合計		4,800	1,999	41.6%	406	8.5%	2,405	50.1%

5. 標本誤差

アンケート調査を行う場合、全母集団を対象とすることが望ましいが、実際には適切な数の標本を抽出して調査を行うことになる。そのため、アンケートの回答結果が、どの程度の精度を持った回答結果であるのかを検討することが必要となる。その精度は以下の式で表わされる標本誤差を算出することで把握できる。

通常のアンケートでは、信頼度として95%がとられるケースが多い。信頼度95%とは、100回に5回がその標本誤差の範囲におさまらないという意味である。

次の表は、本調査における信頼度95%の場合の標本早見表である。

回答の比率 (P) 回答数 (n)	90%または 10%前後	80%または 20%前後	70%または 30%前後	60%または 40%前後	50%前後
2,405	±1.20%	±1.59%	±1.83%	±1.95%	±1.99%
2,000	±1.31%	±1.75%	±2.00%	±2.14%	±2.19%
1,600	±1.47%	±1.96%	±2.24%	±2.40%	±2.45%
1,200	±1.69%	±2.26%	±2.59%	±2.77%	±2.82%
800	±2.08%	±2.77%	±3.17%	±3.39%	±3.46%
400	±2.94%	±3.92%	±4.49%	±4.80%	±4.90%

<標本誤差の算出方法>

$$b = 1.96 \sqrt{\frac{(N-n)}{(N-1)} \times \frac{P(100-P)}{n}}$$

b : 標本誤差

N : 母集団数 (宇都宮市の20歳以上80歳未満人口)

n : 比率算出の基礎 (回答者数)

P : 回答の比率 (%)

1.96 : 信頼度95%の場合 (信頼度99%の場合は2.58を使用)

<表の見方>

この表の見方としては、例えば、回答者数が2,405で宇都宮市が「好き」との答えが43.0%であった場合、「その回答比率の範囲は最高でも43.0%±1.99%以内(41.01%~44.99%)である」とみることができる。

6. 調査報告書の見方

- 集計値は、小数点第2位を四捨五入とする。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- 回答比率(%)は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- 基数となるべき実数はnとして表示した。その比率は、件数を100.0%として算出した。
- 属性別クロス集計において、有効的なサンプル数が確保できていないものや各属性別の「その他」の一部は参考値とする。